

「ハレとケ」 通信

第10号

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (10)

「香川町の家」

「ハレとケ」のある暮らしかた

【鯉のぼり／端午の節句】

中津万象園「花の歳時記」(10) 若葉の頃

かさねの色 (10) 「蓬」

平成23年3月発行

写真は、一昨年、女木島の桜。絶好のお花見日和でした。

設計／(有)土岐建築設計事務所・施工／富士建設(株)

「香川町の家」

「物語のある建築」も、10回目。これまでさまざまな物語を「紹介してきましたが、この「香川町の家」は、初めての『住宅』にまつわる物語です。

建物のもっとも基本的な形である『住宅』。それは、家族が、安全に幸せな日々を送るための「器」でもあります。…今回も、素敵な物語をつかぎました。



とき、女房のために自分の家の計画に入ろうと思えた。」と振り返る。

さて、今回の香川町の家は、御覧の通り、すつきりとした美しい建物だ。わたし自身も、何度か、「あそこ、何が出来るん？美術館かギャラリーみたいなん？」「カフェかなんか？」と友人から尋ねられたことがある。

そんな、ある意味「住宅」らしくないようなこの建物の中で、大きなウェイトを占めるのが、「ガレージ」だ。

それもそのはず…。なんと、御主人の趣味は、モトクロスと車。特にモトクロスのレースにおける実績には、目を見張るものがあるのだ。

藤澤さんがモトクロスのレースに出場していたのは、43歳から45歳までの3年間。その間わずかにもかかわらず、一九九九年、軽井沢で行われたレース（シニアの部（40歳以上）で125cc、250ccの両方で優勝しているというから驚きだ。しかも、前年の埼玉のレースでも、スタート時に隣のバイクの転倒に巻き込まれ大幅に遅れた出走となったにもかかわらず、競り合いの末2位にランクインしたという。

さぞ若い頃から…と思えば尋ねると、



↑ガレージ面より

「28歳の頃、ミニバイクのロードでのレースで優勝したことがあった程度」の経験しかなかったという。

そんな藤澤さんがダートでのレースを始めるきっかけとなったのは、息子さんが16歳になり、バイクの免許を取りたい、と言い始めたことだった。どうしてもバイクに乗りたい、という息子に出した条件が、『一緒に山のレースをやること』。

「山のレースを経験すれば、ロードの怖さもより分かるし、少々のことでは事故を起こさない。…結果、二人で組んで



↑玄関壁にもタイルを使用。印象的な場所に



↑床は希望通り「つるつとしたタイル」。



出場したレースでは、連戦連勝だった。」

そして、二年後、18歳になった息子さんは、今度は車へ憧れを向け始める。

「小さい頃から、父親の気に入った車に乗せて、ドライブに連れ出していた。車の格好良さ、魅力は身に染みついていただろうから、それに取り憑かれるのは、仕方がない。」

その後、怪我をしたこともあり、息子さんは徐々にモトクロスの世界からは離れ、四輪のレースへとシフトしていく。

だが、藤澤さん自身は、全国規模のレースへ進出、まさに破竹の勢いで勝利を

重ねる。そして、前述の軽井沢のレース

でダブルで勝ち、「そろそろ止めどきかな」とレースの世界から引退した。(ちなみに、その後、息子さんは、岡山国際サーキット、姫路セントラルサーキットでのレースを始め多くの四輪のレースで優勝。雑誌に掲載されたり、スポンサーが付いたり…と今も活躍中である。)

…と聞くと華やかな趣味ばかりを想像しがちだが、今の趣味のひとつは、意外にも「家庭菜園」だとか。家の畑で様々な野菜を作る他、日曜日には母親を連れて、離れた田んぼへも出掛けていく。そ

して「これも親孝行」と言う。

さて、その藤澤さんの家は、息子さんご家族との二世帯住宅である。設計に取りかかる際に建築家へ出した要望は、まず第一に「生活感のない建物であること」。

ご夫婦揃って好みが似ているというだけあって、確かに、住み始めて数ヶ月経った今でも、家の中はスッキリと片づき、余分なものは一切収納の外へ出ていない。

そして次に挙げた要望が『パティオがほしい』『陽射しがたっぷりほしい』…そして、『目の前の綺麗な屋島の景色、夜景

を見ながら、ビールを飲みたい』だった。

結果、建築家からは、(親世帯、息子世帯の両方から夜景を楽しめる左右同型になったプラン)と(親世帯を一階に、息子世帯を二階に置いたプラン)の二つのプランを提案される。

「夜景を見ながら、花火を見ながら、ビールが飲みたい…と先生にお願いをしたけれど、今回のプランは2世帯住宅…ということは、よくあるように親世帯を一階に取ることを考えれば、僕には夜景は見えない。この僕の希望のせいで、

建築家の先生は結構悩んだよう。」と藤澤

さんは話すが、結果的には「親世帯を一階に置く」プランに決定。

「屋島の夜景を見ながらビール…と思っていたけれど、僕らの世帯を一階に置いたプランの方が、間取りも外観も良かった。それに、よく考えれば、一階へ上がれば夜景は見えるし、二階に住んでいるのは息子夫婦。仲良しなんだから、花火を楽しみたいときには『上がるぞ』って声をかけて一緒に見れば良い。」…そして決定したのが、今のプランである。

このプランは、西が低く、東が高い敷地を活かしている。また、スカイウォー



↑ミニチュアシュナウザーの愛犬「人くん」。玄関での一枚。



クを設けるなどの工夫がある他、何よりも、「間取りや敷地、配置に沿った自然な格好良さ」がある。つまり、格好良くお洒落に見せるために無理に作られた外観でなく、理に適った、自然体の格好良さなのだ。当社の営業担当者だった矢原も「こっちのプランの方が断然良かった。正直にこちらに決まって良かった、と思った。」と言っほじ。

そしてプランが決まり、いよいよ仕上材や設備の選択にとりかかったわけだが、実は、その時にも、藤澤さんならではのこだわりがあった。

それは、「真夏に、タイルの上を素足で歩きたい!」、ということ。つまり、床をタイル貼りになりたいと願ったのだ。だが、藤澤家にはミニチュアシュナウザーの愛犬、『人(ジン)』くんがいる。

「僕自身は、滑ってひっくり返ってもいいから(笑)、つるつとした光った質感のタイルが良かった。でも、ジんくんのためににはペット専用のムク材のフロアの方が良いのじゃないか、と先生にも言われて…。結局、色々な素材の床の上にジんくんを乗せてみて、思ったよりもタイルの床が滑らないことが分かったので、

希望通りタイルにした。」

また、外観についても、「ポータータイルと打ちっ放しのコンクリートの組み合わせ」を希望。建築家と相談の結果、質感が好きなポータータイルは内装にも使用し、一階の和室には打ちっ放しのコンクリート面を剥き出しにしたデザインにした。

和室に打ちっ放しのコンクリート?と不思議に思われるかもしれないが、実は、藤澤さんにお話をうかがった日、ちょうどその部屋には緋毛氈が敷かれ、雛人形が飾られていた。それがこの部屋に似合

「香川町の家」の施工について

今回の「香川町の家」の施工を担当したのは、工務部建築家主任（一級建築施工管理技士）の大西正人。もともとビル等大型物件の施工を手がけることの多かった大西ですが、この物件の施工に当たっては、かなり苦労をしたようです。お客さまからも、「夜遅い時間でも、現場事務所に電気がついてるとナ、それがちよつとうちの家から見えるんよ。それを見たら、『大西さん、がんばってるなあ』と思ってるねえ…」と言ってもらった。『真面目でがんばりやさん』（でも、何となくノンビリ・飄々としている気も…）な大西の、『苦労話』を聞いてみました。



うこと「見せていただいたとき、「すごい絵になるなあー」と思わず声を挙げたほどだ。（前ページ写真）

キッチン、風呂などの設備についてもシックなものを選択。「高いもの、グレードの良いものが自分にとって好きなものではないから、夫婦で相談しながら、好きなものを厳選した。」

そして、この家の出来映えは、この記事に掲載の写真で御覧のとおりだ。

家は、大切な家族の命や生活を守る器。そして、そこに暮らすご家族の考え方や

生き方、価値観を映し出す鏡のような存在でもある。

藤澤さんご一家の感覚、スタイルを活かしたこの素敵な場所で、これからもずっと、御家族が幸せな人生を送ってほしい…。そう心から願う、今回の「物語のある建築」であった。

（以下、施工担当者による「苦労話」へつづく）

全てに関して『難易度の高い建物』でしたが（笑）、特に苦労した点をあげると…。

まず、第一点は、「外壁塗装パネル打放し仕上げの精度」。

真四角の建物であればまだしも、今回の建物はあらゆるところに段差があり、コンクリートの品質管理・打設管理を、特に綿密にする必要がありました。

その中で、クラック防止措置として行ったのが、下写真の手法。

開口部（窓など）及び打継周りにガラス繊維ネットを貼り付けて、経年後もできるだけクラックが入らないよう、工夫しました。

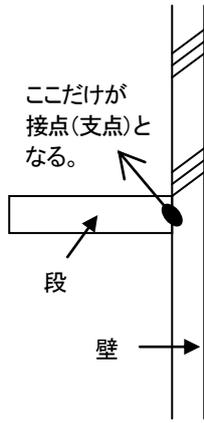


↑鉄筋の一部に風車の羽根のような形で貼られているのがガラス繊維ネット。

もつ一つ、一番難しかったのが、「キャンチ階段（片持ち階段）の施工」。

この階段の施工では、型枠工事、造作工事とも苦労をしました。

まず型枠工事では、階段の全ての踏み段が単独で、かつキャンチ（片持ち／固定できる接点が一面にしかないこと。左写真・図参照）のため、固定方法を考える必要がありました。

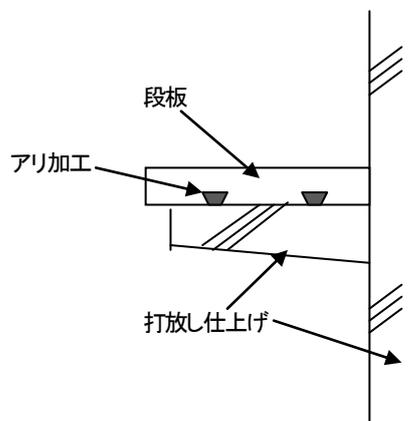


仕上がりの美しさ、精度を考えると、『後打ちコンクリート』で施工することがベストですが、構造的に考えると壁と一体打ちのコンクリートにしないと構造クラックの原因になることが考えられます。

そのため、絶対に『一体打ち』しかないと思い、型枠大工と打合せを行いました。

その結果、内側に仮型枠を組み立てて、段型枠を取り付ける方法で施工を行いました。

次に、段板（コンクリートの踏み段の上に乗る、木の板）の取付方法ですが、設計の先生より「固定ビスを見せないようにしたい」との指示があり、今度は造作大工と打合せを。その結果、『下地をアリ加工し、側面から段板を打ち込む』方法を探りました。



その結果、固定金具を見せることなく、段板の浮き上がりにも強くなったと思います。

いずれも難易度の高い施工方法でしたが、型枠・造作工事とも、『高度な職人の技量』により、すっきりとした納まりになったと思います。

（文・大西正人）



「ハレとケ」のある 遊びかた・暮らしかた

この季節を暮らす。(10) 【鯉のぼり / 端午の節句】

ゴールデンウィークが近づく四月下旬頃になると、青空を悠々と泳ぐ色とりどりの鯉のぼりが、目につくようになりま
す。五月五日の端午の節句に向け、男の子のいる家庭では鯉のぼりが飾られますが、そもそも端午の節句とはどういったもので、なぜ鯉のぼりが飾られるようになったのでしょうか。

◆古代中国からの由来◆

端午の節句の起源は、古代中国の楚に遡ります。楚の国王の側近で詩人でもあった屈原（くつげん）という人は、人望を集めた政治家でしたが、陰謀により失脚し、川に身を投げてしまいます。それを知った国民たちが、とむらいと魚が遺体を突くのを防ぐために、その川にちまきを投げたことからはじまります。やがて屈原の命日である五月五日には、屈原の供養のために祭りが行われるようになり、その風習が次第に、病氣や災厄をさけるための大切な宮中行事へと変わっていきま
した。三国志の時代、魏の国により旧暦五月五日が端午の節句と定められ、それが日本にも伝わってきたとされています。

◆日本の端午の節句◆

日本においては、奈良・平安時代に中国（唐）より、五節句（人日、上巳、端午、七夕、重陽）が取り入れられ、当時貴族の間では、それぞれ季節の節目に身のけがれを祓う大切な行事として、蓬（よもぎ）や菖蒲などの薬草を摘みに野に出て、それを家臣に配ったり、悪鬼を退治する為に午から弓矢を射たりしたそうです。

これが武家時代になると、「菖蒲」が「尚武（武士を尊ぶ）」と音が通ずるため、尚武の節日として盛んに祝われるようになります。その後、江戸時代に入ると幕府は、五月五日を重要な日と定め、大名や旗本が式服でお祝いの品を携え、江戸城に出向く行事が行われるようになったのです。また、武家に男の子が生まれると、門前に馬印や幟を立てて、男児の誕生を知らせ、お祝いしました。

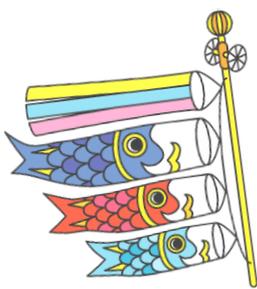
これらの風習がやがて、裕福な庶民の間へと広がっていきま
すが、庶民には幟を立てることが許されなかったため、代わりに鯉のぼりをおあげるようになったのです。鯉は「こゝろ」と、清流だけでなく

池でも沼でも生きられる生命力の強い魚とされ、環境の良し悪しにかかわらず立派に成長し、立身出世するように願って飾られるようになったといわれています。このような時代の変遷のなかで、薬草を摘んで邪気をはらうという端午の行事が、男の子の誕生の祝いへと結びついていったと考えられます。

その他にも、日本では田植え前のこの時期、女性だけが家の中に閉じこもって身を清め、田植えの神に祈願するという風習と、中国から伝わった端午とが結び付けられた、『女性の節句』だったという説もあるようです。

◆鯉のぼり 五色の吹き流し◆

鯉のぼりの一番上についている五色の吹き流しですが、これは、『万物は、木・火・土・金・水の五つの要素で形成されている』という五行説に由来します。木は青、火は赤、土は黄、金は白、水は黒を表現し、幼子の無事な成長を願って魔よけの意味で飾られました。竿の先に付いている矢車も同様の意味で、吹き流しは家の象徴とも考えられています。



◆菖蒲のいろいろ◆
季節の変わり目で疲れが出やすいこの季節。薬草とされ、端午の節句に受け継がれてきた菖蒲を使って、体や気分を癒してみませんか？
(文・イラスト／土岐倫子)

軒菖蒲 … 菖蒲とよもぎを束ねて軒下に吊るしておく
と火事にならないといわれています。

菖蒲湯 … 10 本くらいをざっと束ねて、お風呂に入れ、
42～43 度の温度で沸かして香りを高め、
好みの温度にぬるめてから入ります。

菖蒲枕 … 適当に切った菖蒲を束ね、4 日の夜に枕の下
に敷いて寝ると香りで邪気をはらって
くれます。



※ 五節句

- 人日(じんじつ)…旧暦1月7日「七草がゆ」
- 上巳(じょうし)…旧暦3月3日「桃の節句」
- 端午(たんご)…旧暦5月5日「端午の節句」
- 七夕(たなばた)…旧暦7月7日「七夕祭り」
- 重陽(ちやうよう)…旧暦9月9日「菊の節句」

「花の歳時記」(10) 若葉の頃

万象園を訪れますと園内の植物は、四季折々の顔で私たちを温かく迎えてくれますが、それらの中でも、新しい生命の生長を謳歌する新緑の季節は格別であります。

この万象園の新緑の幽玄境として、皆さまにお勧めしたい場所があります。それは東西に長い園の中央南端付近に位置する「鶏足領」であります。この鶏足領の丘を水源とする溪流は北方に流れて八景池に注いでいますが、この溪流の水源付近の丘にはイロハモミジやモウソウチクが生い茂っています。ベンチに座して瞑想しますと、薫風に揺れるモミジやモウソウチクの葉すれや、サラサラと流れ落ちる溪流、そして木々を飛び交う小鳥のさえずりが耳に入り、あたかも深山幽谷に身を置いたような安らぎを覚えます。

この「鶏足領」の命名の由来につきましてはつまびらかではありませんが、私はその

雰囲気から察するに、仏教の聖地とされている中インドの「鶏足山」にあやかっ命名したのではないかと思っております。

一般的にモミジと言えば、多くの人は鮮やかに紅葉する晩秋の紅葉狩りを思い浮かべると思いますが、この紅葉もさることながら、初夏の爽やかな青空の下で小さな若葉をいっせいに広げ、太陽の光をいっせいに浴びて宝石のように光り輝く新緑のモミジも捨てがたい風情があります。

また、鶏足領の双壁としてイロハモミジと共に景観を構成しているモウソウチクも、この新緑の季節、地上のトキワツユクサを掻き分けて、筒がニョコニョコと顔を覗かせる一方、地上ではモウソウチクの新葉が伸び出ると機を同じくして、古葉が紅葉して薫風に舞う『竹の秋』のシヨウを演じてくれます。(長岡 公)



【長岡 公 氏】

昭和2年10月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和26年3月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業
昭和26年4月以降 香川県公立高等学校教員として
主基高等学校・飯山高等学校・笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、高松南高等学校・飯山高等学校教頭
昭和63年3月 定年退職 香川西高等学校教頭
現在 (財)中津万象園保勝会 理事
※主な著書に「讃岐の名園紀行」(栗林 玉藻編/中西讃編)がある。

古来より季節を感じさせた「色」を知る。

かさねの色 (10)

「蓬」



表：淡萌黄／裏：濃萌黄
着用時期は夏。

夏の成長した蓬の葉の色を写した色目。蓬は邪気を払う植物として、端午の節句に菖蒲とともに用いられる。

日本人の季節を感じる心、美しいと感じる色彩感覚。そういったものの結晶とも言える「重色目(かさねいろめ)」は、平安時代に生まれ、季節の移り変わりを表現する配色として併せ仕立ての着物などに用いられました。現代でもしつらえなどにいかして、平安の風雅を味わってみては…。

【編集後記】

この3月、信じられないような大地震と津波で多くの方々が亡くなり、また、被災されました。心よりお見舞い申し上げます。私たち建設業に携わる人間にとつては、「建設物の意味」を考えさせられる出来事でもありました。

時々、「もしかすると、人間も植物みたいに光合成をしているんじゃないかしら?」と感じるときがあります。悩んだとき、者詰まったとき、落ち込んだとき、ただ外へ出て太陽の光を浴びるだけで、スッキリと頭が晴れ、元気が出てくることあるからです。その時の気分は、まさに「生き返った」という形容がぴったりで、植物が緑鮮やかに頭をもたげ、葉をピンと尖らせる様と重なります。

そんな、太陽や自然から私たちが受け取ることの出来るエネルギーを皆さまにお届けしたくて、今回の「花の歳時記」は「若葉の頃」を選びました。いつも魅力的な文と写真で綴られる長岡さまの「花の歳時記」ですが、この生命の息吹を感じさせる新緑ほど、心を癒す力強いメッセージはないと思っています。

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



建設業許可:香川県知事許可(特18)第189号
/一級建築士事務所:香川県知事登録 第416号
号/宅地建物取引業免許:香川県知事登録(10)第1997号

富士建設株式会社

本社:〒769-1101
三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588(0120-832589)
FAX0875-83-5864
http://www.fujikensetsu.jp
mail y-manabe@fujikensetsu.jp (真鍋有紀子)

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

■営業所:高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所

■中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭